

# 生徒が意欲的に取り組める剣道授業の研究

～保健体育科教員志望の学生を対象としたアンケート調査をもとに～

藏敷 望月 ( 東京学芸大学 )

## 1. 目的

本研究の目的は、生徒が剣道授業に抱く否定的なイメージを改善するために、どのような授業の工夫が有効であるか検証し、生徒が意欲的に取り組める剣道授業を提案することである。

## 2. 研究方法

- 1) 対象者：保健体育科教員志望の学生 70 名 (保健体育科中高免許取得予定の学生)
- 2) 調査方法：保健体育科教員を志望する学生に剣道授業の実態を基に作成したアンケートを実施し、生徒が意欲的に剣道授業に取り組むためにどうすれば良いと考えているのか調査した。
- 3) 分析方法：アンケートの調査結果を基に先行研究を検討したり、T 大学剣道部に所属している学生の協力のもと検証したりして分析を行った。

## 3. 結果と考察

アンケートでは、「剣道授業の楽しさ」についてと先行研究の検討により明らかになった剣道授業の問題点だと考えられる「痛み」「臭い」「礼法」をどのように改善するのかについて調査し、検証を行った。その結果、以下の4点が明らかになった。

- 1) 剣道の楽しさについては様々な回答があったが、特に「攻防」や「試合」に関する回答が多いことが明らかになった。また、全日本剣道連盟(2020)も「剣道の学習の一番の楽しさ、面白さは『攻防の展開』と述べていることから、剣道授業の主な楽しさは「攻防」であると考えられる。
- 2) 痛みの改善には、調査と考察の結果、竹刀の工夫が有効だと推察し、検証を行った。

先行研究を参考に製作した簡易竹刀を剣道部学生の協力のもと検証したところ、竹刀と比較して痛くないという結果を多く得ることができた。このことから、竹刀の工夫が有効であることが明らかになった。

- 3) 臭いの改善についても剣道部学生に協力してもらい検証を行った。検証の結果、剣道具を消臭する方法はあるが、学校現場では臭いの発生を予防する工夫が重要であると推察された。
- 4) 礼法は調査の結果、礼法の所作や形のみを教えるのではなく、意義や必要性を学習してもらうことが重要だと推察された。また、ゲームの要素を取り入れることで、退屈な礼法の学習も意欲的に取り組むことができると考えられる。

## 4. 結論

本研究では、保健体育科教員志望の学生から剣道授業の否定的なイメージを改善するための様々な回答を得ることができた。それらを基に、剣道授業について考察と検証を行った結果、剣道の特性を損なうことなく剣道授業の問題点を改善した、生徒が意欲的に取り組めると考えられる剣道授業を提案することができた。実際に生徒に授業を実践できていないため、提案した授業が本当に有効であるか検証する課題が残された。

## 5. 主な参考文献

- 1) 糸岡夕里・日野克博・中岡祐紀・佐伯沙織・池内裕紀(2011), 中学校における「剣道」の授業実践―生徒の剣道に対するイメージに着目して, 愛媛大学教育学部紀要, 58:137-144